

金曜の会報告

期 日 2019年12月6日

場 所 倉敷労働会館

参加者 6名 (O、HA、AR、AK、TA、YO)

内 容

プラタナスの木授業記録 (AR)

あいしているから解釈 (AK)

木版画『自画像』 (AK)

合唱映像『大地讃頌』(YO)

『ふるさと』(YO)

合唱映像は27日の一日研で見させていただきますが、今回『ふるさと』と『大地讃頌』をやってみて、息を入れることの大切さと難しさを身に染みて感じました。他にも、指揮の意味や音が落ちないようにすることなど、自分がいかに分かっていなかったかも痛感しました。これまで、『息を入れなくてもいい曲・指導』をやってきたんだなと思います。反省点は多くありますが、よい学びを与えていただいたことに感謝です。

自画像を木版画ですることは、未体験の子どもたちにとって高いハードルです。例えば、描画で体験させた後にやってみる等の階段を用意する必要があります。また、教師の側が顔とその描き方、子どもの多くが困るであろう難関とそこへの手立てをもっておこなうてはなりません。輪郭を大きく描くには、顎から始めそれに見合った上部にしていくとか、デジカメ写真を拡大して大きさのイメージを持ちながら描かせる等の工夫が必要です。また、描く進度がバラバラだと、教師も対応が難しくなるので、この1時間はここと決めてその子その子に合った手当てをしていくようにするのがよいです。また、共通項があれば、よいものを広めたり進歩を認めあったりすることが有効に働きます。

プラタナスの木では、『みんなによろしく。』のみんなは A 花島くん・クニスケ・あらまちゃん B 木 のどちらを指すのかを問題にして、直前の1文を証拠に問題作りをして考えさせる展開でした。子どもたちの多くが B 木を的確に選んでいましたが、なぜそこで、その狭い範囲で問題作りをするのかが話題になりました。子どもの中に『よっぽどおかしい』というものがないのです。私も含めて、これからの課題は、この『よっぽど感』だと思いました。また、『みんなで来るから』の後に何が隠れているのかについても考え、おじいさんの『にっこり』との関係が見えてきました。更に、10段落との関わりも。こうした関係・関係で読んでいくと、新しい発見があって面白いです。

『あいしているから』の解釈では、19 段落が原因で 20 段落の『みつめました』が生まれ、21 段落の『本来、(野生の)鳥って空を飛ぶものだ』ということにモールくんが気づくというつながりがあります。また、11 段落から 13 段落を読んで、小鳥の悲しいの原因が外に出られないことであるのに対して、『ママも』悲しく『なった』原因は 11 段落にあると考えました。文責 (YO)